



「橋の下をくぐるよ！」

6月9日に行われた、おひさま・川湯両保育園の年長児によるラフティング体験の様子です。屈斜路ガイドステーションわか（木名瀬裕代表）の協力で毎年行っています。屈斜路湖～釧路川美登里橋を、自然と触れ合いながら下り、子どもたちは大はしゃぎでした。

Public relations magazine

2010.7 No.671

てしかが

主な内容

- 第5次弟子屈町総合計画の策定に取り掛かります…②
- 「少年の主張」弟子屈大会 ……⑥
- 「弟子屈2daysエコバスポート」を販売します！…⑧
- 第22回参議院議員通常選挙 ……⑨
- 平成21年度弟子屈町財政の状況 ……⑩
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑪

むかしむか史 (237)

てしかが歴史写真館 111

開基之碑(かいきのひ)

明治十八年石川県の人本山七右エ門氏か此の地に居を構えたのに始まり明治三十一年に御料局札幌支局川上出張所が設置せられたことか開拓の緒であつて弟子屈町開基の淵源実ここに存する
次て明治三十六年八月十五日付熊牛外四ヶ村戸長役場管轄より分轄し弟子屈外一ヶ村戸長役場を設置大正十二年四月一日付北海道二級町村制の施行により弟子屈村及び屈斜路村を合せ弟子屈村役場を設置昭和十八年四月一日付北海道一級町村制施行昭和二十二年七月一日付大字名を廃止し町制を施行現在に至る
以上の沿革を経て居るか明治三十六年八月十五日日本町に自治制を施行してより昭和二十八年八月十四日を以て満五十年となる
茲に謹んで先人の偉業を讃え其の功績を後世に伝えるものである
昭和二十八年八月

碑文(原文のまま)



1974(昭和49)年ころ



1961(昭和36)年ころ



2010年現在

1999(平成11)年1月号の「てしかが歴史散歩④」で、山本広氏が弟子屈「開基之碑」を紹介していますが、再び触れてみたいと思います。

この碑は1953(昭和28)年、弟子屈が開町して50周年を迎えたことを記念して3日間にわたって行われた記念行事の一つとして建立されたものでした。裏面の碑文は、当時の佐藤惣五郎町長の文で、書は青木武夫仁多小学校長です。

1976(昭和51)年6月5日に旧役場庁舎が火災(原因不明)となって、新庁舎建設が急がれていたのですが、新庁舎の建設予定地にこの「開基之碑」が建立されていました。そのため、弟子屈神社参道に隣接する現在のところへ移設されたのです。同じ敷地にあった修武館も、同じところに移設新築されています。

山本広氏は、

「あれから、40数年の歳月が流れ、今は私のもとへ訪れる人もない。

やがて、百年記念の事業が始まる頃には、

私のことを思い出してくれる日も近いと信じている」

と、この碑の言葉を代弁しているかのように書かれています。

「開基之碑」の解釈については意見が分かれるところですが、弟子屈町100年記念は7年前(2003年)に終わっています。

てしかが郷土研究会(松橋)

てしかが 2010.7

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/企画財政課 ☎482-2913 ㊟482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

100 この広報紙には再生紙を使っています